

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報17

1999年度

2000年8月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報17

1999年度

2000年8月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

## 序

1999年度における当センターの事業は、ここ数年と同様、多くの発掘調査で迫られました。津島地区の環境理工学部校舎（Ⅱ期）と総合研究棟、鹿田地区の医学部附属病院病棟と医学部共同溝等において、それぞれ意義ある調査成果を得ることができました。必要な発掘調査を推進することは当然としても、調査にあたる人員に限りがあり、すでに発掘調査を終えた資料の整理や報告書を刊行する作業の遅滞が問題となってきます。遺跡は人びとの共有文化財であり、発掘調査の実施後は、できるだけ速やかに調査の成果を学術報告書として公にする責任があります。年々重くなる課題ですが、各方面のご協力も得つつ解決に努めたいと思っています。

さて、1999年度においては、構内遺跡の保護と調査およびセンター組織のあり方等について、かなり大きな変化がありました。

第1は、1999年9月に本センター管理委員会が、津島地区東北隅地域に学内措置として遺跡保護区を設定するよう決定したことです。これに基づき、同年12月、施設設定委員会は施設長期計画配置図に遺跡保護区の範囲（約17,000平方メートル）を明示しました。この保護区域には、周辺地域におけるこれまでの調査で縄文時代の集落や食料貯蔵穴、弥生時代以降の水田遺構が濃密に分布することが分かっています。重要な遺構が予想される区域を今後の施設建設予定地からあらかじめ除外しておき、遺跡の保護をはかるという趣旨です。将来は遺跡公園のようなかたちで整備し、本学の研究教育や地域を含めた学校教育・生涯教育の場としても活用していくことが期待されます。

第2は、構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項の制定です。本学が構内遺跡の発掘調査をはじめ約18年になりますが、この間、さいわい大きな事故もなく経過してきました。しかし近年のように相当な面積の発掘調査が絶え間なく続くと、現場に何らかの無理が生じ、思わぬ事故につながりかねない危険性が增大します。

本センター運営委員会では、こうした点にも留意し、1999年度に発掘調査にかかわる安全管理事項の審議を進めました。その決定内容は2000年5月15日付けのセンター長と施設部長名による文書となり、事務局施設部の監督職員および請負業者の常駐させる現場代理人のもとで、発掘現場の一層の安全強化をはかることとなりました。センターでは、これとあわせ、調査を指揮する専任教官が地山掘削と土止め支保工の技能講習を受講することとし、すでに専任教官全員がこれを修了しました。

第3は、センターに所属する専任助手の採用条件の変更です。本学では1999年3月に学内共

同利用施設における助手の任期に関する規程ができたため、本センターについても、1999年度助手採用から任期制が適用されることとなりました。本センターの場合、助手の任期は3年で、再任可（原則として1回）としています。これは、従来からセンター助手の採用・転任がおおむね3年から5年のサイクルで行われてきた実績をふまえたものです。

第4は、本センターの将来構想にかかわります。センター管理委員会は大学博物館の創設を含むセンターの将来構想を1997年に決定しておりますが、2000年3月に作成された『21世紀の岡山大学構想』においても大学博物館の設置がとりあげられました。21世紀に向けた基盤整備の1つとして本学が積極的に設立していこうとする内容であり、本センターの目指す方向と密接にかかわります。学内ではすでに13部局の委員等で構成される岡山大学総合博物館（仮称）構想検討会が活動を進めており、1999年度には冊子『岡山大学自然と人間の共生博物館』の作成やそれに基づく学外アンケート等が実施されました。本センターは、同検討会の一員として引き続きこうした活動の推進に貢献していく必要があると思われまます。

以上、1999年度は発掘調査に明け暮れたとはいえ、センターのいくつかの面でかなり大きな動きがあったわけです。このほか、職員の尽力によりセンター報22・23号と年報1冊を定期刊行し、1997年度に行った鳥取県三朝町固体地球研究センター実験研究棟建設にかかわる福呂遺跡の発掘調査報告書も刊行することができました。

調査をはじめとするセンターの事業の推進にあたっては、本学事務局をはじめ、関係部局・各位から多くのご支援・ご協力を賜りました。あらためて厚くお礼申し上げる次第です。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

稲 田 孝 司

## 例 言

- 1 本報告は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において1999年4月1日から2000年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および活動成果をまとめたものである。
- 2 大学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、設定基準を次のように定めた。
  - 1) 津島地区では、国土座標第Ⅴ座標系 ( $X = -144,500\text{m}$ ,  $Y = -37,000\text{m}$ ) を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設定した。一辺50mの方形区画である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に二分する (図22)。
  - 2) 鹿田地区では、国土座標第Ⅴ座標系 ( $X = -149,800\text{m}$ ,  $Y = -37,400\text{m}$ ) を起点とし、座標軸を  $N - 15^\circ - E$  に振ったものを基軸とした構内座標を設定した。地区割は一辺5mの方形を基準として用いており、図で示す場合は一辺10m四方の方形地区割りを用いている。
  - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は真北を、他は磁北を用いている。
- 3 岡山大学構内の遺跡の名称は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。三朝地区の発掘調査地点は小字名をとり「福呂遺跡」と呼称する。他地区は任意の名称で仮称する。
- 4 調査名称は、「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡毎に調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘調査」「立会調査」に分類したものは、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で、試掘調査から連続して調査したものは、「試掘調査」に分類する。
- 5 「発掘調査」についての記述は現段階における概要であり、詳細は正式報告に依って頂きたい。「試掘調査」については、本年報での記述を正式報告にかえる。
- 6 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
- 7 附表2-(2)に掲載する調査一覧については、中世層まで掘削したものを対象とし、その他については除外した。未掲載のデータについては、当センターにおいて管理している。
- 8 本文・目次・挿図・写真などで使用の調査番号は表1と一致する。
- 9 本文は岩崎志保・喜田敏・豊島直博・野崎貴博・横田美香が分担執筆し、執筆者名を末尾に記した。
- 10 編集は稲田孝司センター長の指導のもとに、岩崎志保が担当した。
- 11 本年報に掲載の地形図は、すべて国土地理院発行の1/25000「岡山北部」・「倉敷」を複製したものである。

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報17 1999年度

## 目 次

第1章 1999年度岡山大学構内遺跡調査報告	1
第1節 調査の概要	1
第2節 発掘調査	1
1 津島地区	1
(1) 津島岡大遺跡第22次調査〈環境理工学部校舎Ⅱ期〉	1
(2) 津島岡大遺跡第23次調査〈総合研究棟〉	7
2 鹿田地区	10
(1) 鹿田遺跡第9次調査・第11次調査〈医学部附属病院病棟Ⅰ期〉	10
(2) 鹿田遺跡第10次調査〈医学部共同溝〉	16
第3節 試掘調査	19
(1) 総合研究棟新営に伴う試掘調査	19
(2) 工学部電波暗室新営に伴う試掘調査	22
第4節 立会調査	22
1 津島地区	22
2 鹿田地区	23
第2章 1999年度普及・研究・資料整理活動	32
1 資料整理	32
2 刊行物	32
3 調査員の活動	32
4 日誌抄	35
5 1999年度までの遺物保管状況	36
6 遺物の保存処理	38
7 利活用状況	39
a. 資料等の貸し出し	39
b. 展示・発掘調査等見学状況	40
第3章 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項	41
第1節 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの内部規程	41

1	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程	41
2	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規程	42
3	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程	43
4	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程	44
第2節	1999年度埋蔵文化財調査研究センター組織	45
1	センター組織一覧	45
2	管理委員会	45
3	運営委員会	46
第3節	1999年度審議・決定事項	47
1	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規則等の改正	47
2	岡山大学津島地区東北隅地域の遺跡保護について	51
3	岡山大学学内共同利用施設における助手の任期に関する規程	53
4	岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項	54
第4章	1999年度業務のまとめ	56

## 挿 図 目 次

図1	津島岡大遺跡第22次調査地点位置図	1
図2	同 土層断面図	3
図3	同 縄文～弥生時代検出遺構平面図	5
図4	同 古代検出遺構平面図	6
図5	津島岡大遺跡第23次調査地点位置図	7
図6	同 土層断面柱状図と断面位置	8
図7	同 弥生時代～古墳時代の遺構平面図	9
図8	鹿田遺跡第9～11次調査地点位置図	10
図9	鹿田遺跡第11次調査土層断面図	12
図10	鹿田遺跡第9・11次調査 弥生時代検出遺構平面図	13
図11	同 中世検出遺構平面図	15
図12	鹿田遺跡第10次調査地点土層断面図	18
図13	総合研究棟予定地試掘調査地点位置図	19
図14	同 土層断面図	20
図15	工学部電波暗室予定地試掘調査地点位置図	22

図16 同 土層断面図	22
図17 調査18地点位置図	23
図18 同 東壁断面図	23
図19 調査41・46・47地点位置図	24
図20 調査46地点西壁断面図	24
図21 調査46地点概略図	25
図22 津島地区全体図	27
図23 今年度の調査【1】津島地区	29-30
図24 今年度の調査【2】鹿田地区	31
図25 津島地区東北隅地域における遺跡保護区の範囲	52
図26 1998年度までの調査地点【1】津島地区	67-68
図27 1998年度までの調査地点【2】鹿田地区	69
図28 1998年度までの調査地点【3】三朝地区	70

## 表 目 次

表1 1999年度調査一覧	25
表2 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物一覧	36
表3 第3期木器処理工程	39
附表1 1982年度以前の構内主要調査(1980~1982年度)	57
附表2 1998年度以前の構内主要調査(1983~1998年度)	58
附表2- (1) 発掘調査	58
附表2- (2) 試掘調査など	60
附表2- (3) 立会調査	62
附表3 埋蔵文化財調査室刊行物	65
附表4 埋蔵文化財調査研究センター刊行物	65

## 写 真 目 次

写真1 鹿田遺跡第9次調査地点弥生時代検出水田畦畔	14
写真2 鹿田遺跡第10次調査③区杭群検出状況	18
写真3 鹿田遺跡第9次調査現地説明会開催状況	40